会　議　録　　□全部記録　　■要点記録

会議の名称	令和４年度 第１回静岡市子ども読書活動推進会議
開催期間	令和４年９月９日（金）午前 10 時 00 分から 12 時 00 分
場　　所	清水庁舎　３階　312 会議室
出 席 者	**（静岡市子ども読書活動推進会議委員）** 小南　陽亮 向山　守 米持　恵美 藤波　純子 小林　摩湖 望月　明美 狩野　絹子 中村　都美
	（静岡市子ども読書活動推進委員会） 教育局次長　中村　陽介 教育局教育センター所長　北川　和彦 参与兼中央図書館長　勝見　幸弘
	（静岡市子ども読書活動推進委員会作業部会） 男女共同参画・人権政策課主任主事　小島　優太郎 生涯学習推進課主任主事　渡辺　昌教 文化振興課主任主事　海野　智裕 子ども未来課主任主事　佐野　千夏 幼保支援課主任主事　田中　友之 こども園課富士見台こども園長　前田　範子 教育総務課管理主事　佐藤　敬子 学校施設課主査　吉川　圭子 教育センター学校図書館支援室長　新井　義広 教育センター指導主事　橋本　絵理

	（事務局） 中央図書館副館長兼管理係長　　田中　邦子 中央図書館サービス係長　　照内　美穂 中央図書館主任主事　　松林　生恵 中央図書館主任主事　　杉浦　明日香 中央図書館会計年度任用職員　　大橋　直江
欠 席 者	**（静岡市子ども読書活動推進会議委員）** 安間　吉則 澤本　由美
傍 聴 者	なし
議　　題	（１）「第３次静岡市子ども読書活動推進計画」の令和３年度実績報告及び令和４年度取組内容について （２）「第４次静岡市子ども読書活動推進計画」の方向性について
会議記録	別紙のとおり

（会議進行記録）

１　開会

２　教育局次長挨拶

３　議題

（１）「第３次静岡市子ども読書活動推進計画」の令和３年度実績報告及び
　　令和４年度取組内容について

（小南会長）

議題１、「第３次静岡市子ども読書活動推進計画」の令和３年度実績報告及び令和４年度取り組み内容について、まず第３次計画概要の説明を中央図書館からお願いいたします。

（中央図書館長　勝見）

お手元の【資料１】をお願いします。「第３次静岡市子ども読書活動推進計画」の概要が示されています。１番から５番まで要点だけお話しします。

まず、１番の経緯ですが、この計画は平成 13 年 12 月に子どもの読書活動に関する基本理念を定めた「子ども読書活動の推進に関する法律」が施行されたことにより、平成 19 年２月に静岡市は法令「静岡市子ども読書活動推進計画」を策定しました。計画年数は５年で、これが計画の第１期になります。その後平成 24 年 11 月に第２次を３年計画で策定、現在動いているのは平成 27 年３月に策定した８年計画の「第３次静岡市子ども読書活動推進計画」となります。この計画では、８年間のための目標を作りましたが、１番下の段にありますように平成 31 年３月に中間見直しを行い、数値目標の一部を修正しています。内容的には学校協力貸し出しという数値目標があるのですが、当初 10,000 冊から 15,000 冊に変えています。

次に２番の計画の目的ですが、年齢や障害の有無、国籍や育った環境にかかわらず、ひとりひとりの子どもが自然に読書に親しむことができるよう、子どもの読書環境を整備する施策を総合的に推進することを目的としています。

３の内容ですが、対象は 18 歳以下の者。４つの基本的方針を柱として進んでいます。

①　子どもが読書に親しむ機会の提供

②　子どもの読書環境の整備・充実

③　子どもの読書活動に関する普及・啓発

④　学校・地域等の関係機関の連携・協力

という方針に合わせて取り組みを行い、静岡市の各担当部署でも事業を行っています。なお、先程紹介させていただきました各課の取組内容につきましては資料が別にございますので、もし何かご質問や説明が必要でしたら、この後、ご質問ご意見をいただければと思います。

次に４の進行管理ですが、平成 19 年度から学識経験者や保護者などで構成する「静岡市子ども読書活動推進会議」を設置し、８年計画や５年計画の事業の進捗状況の点検や評価などを行い、継続的にこの計画を進めております。現在の第３次の計画期間は８年間で令和４年度末つまり今年度が最終年度となっています。

次に５の次期計画への準備についてです。例年ですとこの項目はありませんが、今年度が最後ということでこの項目を設けています。今回の会議の主なところとなりますのでご承知おきください。

「第３次静岡市子ども読書活動推進計画」は今年度を計画期間の最終年度としております。そのため次期の計画、第４次の組み立てをしたいと思っております。この会議を様々なご意見の聴取の場としたいと思っております。本日は今までの取り組みに対する結果や数値目標の達成度をご覧になった上で、国、県、市の関係する計画等に沿って新しい「静岡市子ども読書活動推進計画」を今年度中に策定したいと考えております。【資料１】の概要の説明で主なところだけ読ませていただきました。よろしくお願いいたします。

（小南会長）

ありがとうございました。ただ今の説明を参考にしていただき議題１「第３次静岡市子ども読書活動推進計画」の令和３年度実績報告及び令和４年度取り組み内容について検討に入りたいと思います。【資料２】を中央図書館及び教育センターから説明をお願いいたします。

（中央図書館長　勝見）

引き続き中央図書館が先に説明させていただきます。【資料２】をご覧ください。項目が全部で８つ程あります。前回組み立てた第３次の目標に沿って出た実績を順番に年度別に並べた表になります。上段の３つが図書館の部門になりますのでその説明をさせていただきます。そのあと下の部門を教育センターにご説明いただきたいと思います。

まず 1 番上の図書館の児童図書の蔵書冊数という目標の項目があります。令和３年度は 8.2 冊という数字があります。これは前年度の 8.1 冊よりも伸びてかつ計画の目標である毎

年８冊以上という目標を達成することができました。

２番目の図書館の児童図書の年間貸し出し冊数は、年齢対象は 12 歳以下の子どもです。その子どもが借りてくれた本の冊数を示していますが、令和３年度は 19.7 冊、令和２年度は 16.0 冊でしたので大きく伸びています。かつ目標である 17.5 冊も超えました。

３番目が学校協力貸し出しの年間貸し出し冊数です。令和３年度の実績は 22,278 冊、前年度は 20,109 冊でしたので、目標の 15,000 冊も超えてかつ前年度よりも多いという形になっています。この学校協力貸し出しというのは平成 29 年度から４年連続で冊数が伸びていますが、この目標達成には平成 31 年度、教育センターに学校図書館支援室が設置されまして、本事業の利用方法が学校の方によく周知されたためこの事業を使用される学校が増えた結果だと思っています。今後もこの静岡市子ども読書活動推進計画推進のため特に学校との連携を強めていきたいと考えています。説明は以上です。

（教育センター所長　北川）

ここから教育センターが説明をさせていただきます。まず教育センターですが、与一にありまして北部図書館との複合施設になっています。業務としまして教員の研修、研究、情報センターの役割を持っています。私たちの教育センターの中に学校図書館支援室が設立されまして、学校図書館の充実に向けて今取り組みしているところです。それでは上から４つめの項目から説明をさせていただきます。学校では朝の時間を使って朝読書、読み聞かせの活動を行っているのですが、それら全校一斉の読書活動を実施している割合になっています。令和３年度実績が令和２年度に比べてやや減少傾向です。小学校で 98.7%、中学校 94.6%、小中学校というのは梅ヶ島のように施設一体型小中学校のことですがこちらは100%実施となっています。要因としては先程中村教育局次長から話がありましたが現在 GIGA スクール構想ということで、一人一台端末が子どもたちの手元にあります。この８月で小学校１，２年にも配布が終わりましたので義務教育段階の子ども達に一人一台端末の環境が整いました。端末の導入とかコロナ禍の影響で朝読書、特に読み聞かせの実現が難しかったのでそういう所が影響しているのかと分析しております。

次の項目に移ります。まったく本を読まない子の割合です。令和３年度の実績で、小学生では 0.99%と減少しているのに対し中学生が 12.9%と増えている現状があります。これは先程申しました影響等もあって学校での読書活動の時間の減少、中学生のスマホ、タブレット所持率が高くなっていること、そういうことに費やされる時間が多くなっていることが原

因の一つと考えられると思っています。

続きまして下から３つ目ですが、読書週間や子ども読書の日などの読書啓発に取り組んだ学校の割合になります。令和２年度、令和３年度は蜜を避けるために読書推進イベントの実施を控えた学校が実質ありましたので、令和元年度より減少しています。また、子ども読書の日が４月 23 日ということで新年度が始まったばかりの時期で教育過程上難しいという状況があります。各小中学校では年間の中で、読書週間、読書イベントなど啓発活動を行なっているところが多く見られます。

下から２つめの項目に移ります。学校司書等の配置について令和元年度より小中学校全校に配置が進んでおります。ただ中山間地の学校は毎日というわけではなく、教育センターに２名の学校司書がおりまして、その２名の学校司書が学校を巡回し対応しております。緊急にアドバイスをほしい等の場合は、GIGA スクール構想の端末等を活用したオンラインのレファレンスも多い状況にございます。

最後の項目に移ります。学校図書館の機能を生かした授業での利用ですが 100％実施になっています。毎年、学校から学校図書館を活用してこのような授業を行ったという実践例も教育センターでは収集しております。収集した情報は、教育センターのホームページに学校図書館支援室ポータルサイトというさまざまな情報にアクセスできるサイトを構築し、運用を始めましたので、そちらからも公開しているところです。全体として平成 30 年度から学校図書室支援室が教育センターにできましたので令和元年度の部分でどの項目も大きく伸びが見えるところです。学校図書館の環境整備や授業での利用の促進、学校図書館の担当教員や司書への研修、教育センターの職員の訪問など働きかけを行ってきた成果と思っています。しかしその後のコロナ禍もありまして、学校現場の教育環境も大きく変化し、実施できる内容自体も年々変化しているという状況になっています。それがこの数値目標の内容として出てきているのではないかと分析しています。教育センターからの報告は以上です。ありがとうございました。

（小南会長）

ありがとうございました。次に【資料３】「第３次静岡市子ども読書活動推進計画取組状況一覧表」についてご意見質問等ありましたらお願いします。回答は関係する担当各課の方にお願いしたいと思います。どんなことでも結構ですのでお願いいたします。

（向山副会長）

【資料２】の説明を伺いたい。上から５個目ですね、一ヶ月にまったく本を読まない児童生徒の割合ですが、本というのは紙なのか、もしかしたらスマホ等で文学作品を読んでいるということもある。本だけでなくそういったものを視野に入れると、もしかしたら聞き方として二つに分けた方がよりどういう活動をしているかわかるのではないかということがありますがいかがでしょうか。

（教育センター　橋本）

この調査ですが、平成 30 年の調査までは学力調査でこのような項目があったので、そちらを参考に挙げておりました。ただ文部科学省で実施している学力調査の聞き方が土日は省く、学校の授業時間も省く、平日のみでということで聞いていたので、この聞き方ですと、土日にたくさん貸出しておりますので、金曜日にたくさん本を持って帰った子たちが読んでいるものが数値に反映されてない可能性があるということと、学力調査を実施できない年もありましたので、令和元年度以降はこちらで調査を行うようにいたしました。各年の７月上旬に全校に調査を依頼しまして、小学校３年生、中学校２年生を対象に一ヶ月間まったく本を読まない子について、各校から回答をいただいております。その際、学力調査の項目にもあります漫画は省くというようなこともありました。ただ最近は学校図書館にも市立図書館にも学習に役立つ漫画や興味関心を抱く漫画等もありますので、雑誌でパラパラと読むものは省くという形で、漫画を本としてしっかり読書している場合は入れても良いとし、条件も少し緩和しながら調査を行っております。その結果が令和元年度以降のものになります。電子図書については現在学校の方で導入ができていないということと、市立図書館でも令和３年度の段階では導入していなかったので、それについてあえて触れてそれも含みますとは言えませんでした。来年度以降はそちらの方もきちんと明記したうえでの不読率という調査が必要だと考えております。以上です。

（向山副会長）

ありがとうございました。少し驚いたのは１学年しか聞いていないことです。小学３年生であるとかそれも何を反映しているのかそのやり方が問題だと思います。全部聞いているのか疑問でしたので聞いてみました。ありがとうございました。よくわかりました。

（小南会長）

ただ今ご質問いただいた事にさかのぼっても、他でも結構ですので、よろしくお願いいたします。

（中村委員）

同じく【資料２】の関係なのですが、拝見した時におそらく中学生の 12.9%は話題に上がるだろうなと思いました。分析をしたのですが、先だって全国学力学習調査の結果が公表されました。その中で中学３年生がどれくらいSNSおよびゲームに時間を費やしているかという質問項目があって、その中に４時間以上とか３時間～４時間等、４段階くらいに分かれていて、３時間以上という子はかなりいるなあと、うちの学校だけではなく静岡市、全国においても多いなあ、SNS、ゲームに費やしている時間、端末モバイルを見る時間が多いなあと思いました。

もう一つ、子どもたちに電子書籍という感覚がおそらくない。本と言われたら紙の本、教科書に代表されるもので、電子書籍はピンとくるのかなあと思った。多分違うだろうなあと。ネットで公開されているなろう系と聞くと中学１年生は本校の場合ですが、なろう系、リゼロとか、薬屋のひとりごととか、なろう系の小説がすごく流行っているのですが、なろう系ということについてネットで小説家になろうというサイトにアクセスしている子がおそらく 30 人から１割くらい。それが中学２年生になると倍増します。３年生になるとかなりの子が知っています。さらにそこから書籍販売されている、なろう系の小説いわゆる文庫本を３年生はほぼ知っています。ただ成蹊大学の先生の研究ですが、子どもは子ども同士の読書交換ではなくSNSの中で同じ思考をもった子どもたちと情報交換している。そうすると今の調査方法でいくと、いわゆる大人が本と思っている本と思って回答するのではないかと思っています。子供たちにもう少し分かるように間口を広げてあげないと全く読んでいないわけではないと思っています。12.9%は少し高いと思います。以上です。

（小南会長）

ご意見ということでよろしかったでしょうか。

（中村委員）

はい。

（小南会長）

ありがとうございます。では参考にしていただければと思います。どんなことでも結構で

すのでいかがでしょうか。活発なご意見いただきたいと思います。

（小南会長）

令和４年度の目標はかなり思い切った目標となっています。一ヶ月に全く本を読まない児童の割合が０％というのはすごい目標だなあと思います。意欲的な目標ととらえればいいのかなと。少し目途が立てやすいものとしては読書週間、下から３番目「こども読書の日」等に読書啓発に取り組んだ学校数の割合が今年度 100%。ここまで 100%達成というのは現実的に可能な目標と考えてよろしいのでしょうか。一つ上の全く本を読まない児童生徒の割合これは目途を立てるのが難しいかもしれません。

（教育センター　橋本）

ご意見ありがとうございました。令和元年度のところを見ていただきますと、特に小中学校では朝読書、読み聞かせという読書イベントのところも一応は 100%ということで全校が達成しています。コロナ禍ということで、特に小学生は読書イベントをやりますと喜んで参加してくれるため図書館が満杯になってしまいますので、令和２年度、３年度は控えながら実施しています。今年度も決して状況がよくなっているとは言えないので、実施については慎重に行っています。学校につきましては読書啓発に関するイベントやそういうことを実施していくことの大切さは伝わっているかと思いますが、今の状況を考えますと令和４年度 100%は難しさもあるかもしれません。

（小南会長）

わかりました。現在こういった状況ですので 100%は難しいと思います。ただ、潜在的には 100%にし得るということですね。いかがでしょうか。どんなことでも結構です。

（向山副会長）

２とも３ともからむと思うのですが、２点みますと、上から４番目に朝読書読み聞かせと書いてあるのですが、私は小さなころ読み聞かせの経験があまりなかったものですから、どういう状況なのでしょうか。小学生低学年ですか、中学生で読み聞かせすることはないですよね。読み聞かせ、朝読書がどんなふうになされているのか、その時の子どもの様子をお聞かせ願えればと思います

（狩野委員）

小学校の状況からお話しします。本校では朝の時間を設定しています。水曜日に読み聞かせあるいは読書の時間という形で週に一回設定しています。読み聞かせは保護者のボランテ

ィアを応募しまして１年から６年まで一斉に読み聞かせするという形になっています。読書週間の時には担任の方も読み聞かせをするということをとっておりますが、本校は朝の時間があるのでできますが、授業自体が６時間の形になっているのでなかなか朝の時間を確保するのが難しい状態になっています。朝の読書を必ず入れているといのは難しくなってきているのが現状だと思います。

（向山副会長）

ちなみに時間はどの位ですか。

（狩野委員）

本校では 15 分間です。

（向山副会長）

1 冊読むわけではないですか。

（狩野委員）

それは無理ですね。読み聞かせは基本絵本です。読み聞かせの時は１冊読むという形になっています。

（向山副会長）

個々のお子さんが持ってきて読むのですか。

（狩野委員）

読書の時はそうです。

（中村委員）

中学校は多分学校によりけりだと思います。どんな子どもに育てたいかで優先順位が決まってくる中で朝読書の時間を入れられるか入れられないか、本校は入れていますが、５分～10 分です。本を開いて読み始めて集中するともう終わりです。読み聞かせについてはイベント的な形で年間３回。今迄は学校応援団というシステムの中でやっていましたが、コミュニティスクールのシステムの中に移行しつつ地域の方で読み聞かせをしてくださる方が年間３回、20 分絵本のようなものを読み聞かせ、中学生もよく聞いています。とてもかわいいです。

（向山副会長）

ちなみに中学生に読み聞かせする絵本はどんな本ですか。

（中村委員）

懐かしい本でも、子どもたちは懐かしい、知っていると言いながら聞いています。中学３年生などに「ぼちぼちいこか」など読んであげると気もちが焦っている子どもにとっては励ましになるのかなと思います。絵本は本当によく聞いています。

（生涯学習推進課　渡辺）

生涯学習施設でも読み聞かせを実施しておりまして、主に各施設に読み聞かせのサークルがあり、親子でスキンシップも含んで読み聞かせをやっていて多い所だと毎月やっています。【資料３】でいきますと８ページのところに載っています。令和３年度の開催回数が 105 回、24 講座で親も入っているのですが延べ 1,458 人の方、意外に中学生位の大きな子の読み聞かせとしてはクリスマス会やイベント等のおはなし会で歴史や戦争のお話等を紙芝居で読み聞かせるものもあったりして現代的、社会的な課題を子どもたちに伝える取組の中でも、読み聞かせを通して伝えているという現状があります。以上です。

（小南会長）

ありがとうございました。いかがでしょうか。

（小林委員）

資料３の 20 番のところですが、私の小学校は朝の時間帯で保護者の読み聞かせを行っていました。読み聞かせ委員会というものがありました。また、リサイクルボックスという活動により、保護者の負担を減らす等、いい意味で変えられていく中で、読み聞かせ委員会も廃止されたという経緯があります。代わりに放課後こども教室で読書活動が行われている話を聞いています。数値目標が 100％とあるので児童全員が放課後こども教室に行けるかといったらそうではないのですが、現状に対応して朝の読書の代替案として新しい取り組みの中で読書に触れられる機会が出来てきているのはすごく素晴らしいことだと思います。各学校色々な取組の仕方があると思うので、今後も司書の方のアイディアも出てくると思います。色々な形で読書に触れられるイベントがコロナ禍でも行われていけばいいと思います。

（小南会長）

ご意見という形で参考にしていただければと思います。いかがでしょうか。小学校と中学校が連携するという事例があるのでしょうか。中学生が小学生に読み聞かせをしてあげるとか自分で聞くのではなく、人に読んであげるという体験が貴重な体験だと思いますが小学校と中学校が読書関係で連携するという事例があるのでしょうか。参考までに教えいただきた

い。

（教育センター　橋本）

市内のことでお話しさせていただきます。まず、子ども同士の読み聞かせということでは静商の高校生が田町小学校に行って小学生に読み聞かせをする機会があります。コロナ禍ですので実施は難しいのですがそういう活動をしています。また、中学校の方では家庭科で保育の勉強がありますので、近隣のこども園のお子さんたちに読み聞かせをしてあげています。そのために学校司書にどんなふうに読み聞かせをしたらいいのか子どもたちが質問に来るということが子どもたちの読書活動の中では行われています。

それ以外にも小中一貫ということで進められておりまして、学校司書の研修も現在小中一貫で行っております。各校一人しかいない中、悩みを抱えてしまう事もありますし、お互いの蔵書などを知ることで相互貸出ができるように学校司書がお互いに情報を共有するという形でやっております。

（小南会長）

ありがとうございました。高校生が小さなお子さんに読み聞かせをする。大変面白い体験だと思いました。何か他にありますでしょうか。

（中村委員）

どなたにお聞きすればよいのかわからないのですが、学校や色々な施設、図書館などありますが実際家庭でどれ位本を読んでいるのかというのが分からなくて。県の指標を見ると１週間に１回は家で本を読みましょうと指標が出ています。静岡市は家庭で本を読む日ノーメディアデーとか、本以外のメディアはやめましょうという話を聞いたりしているのですが、お家でどの程度読んでいるのかなあと思っています。

（小南会長）

そういうところ、統計とか情報あるのでしょうか。

（米持委員）

統計というわけではないのですが、高校３年生と中学２年生の息子がいますが、中高校生になったらほとんど家で本を読むという機会がないのが現状です。言い訳になってしまうのですが、部活で帰って来て宿題をやりご飯を食べると８時か９時になってしまう。その後お風呂となると、中高生は忙しいです。家庭で本を読むというのは本当に本がとにかく好きというお子さん。先ほど両極化しているのではないかというお話もあったと思うのですが、本

が好きという子はどんな時間でも費やして読むと思います。例にもれずわが子もスマホを見てしまう時間があり、なかなか難しいなあと思います。ただ小学生の頃は学校の図書室から持ってきた本が家に常に毎週違う本がありましたので、中学生になってからの興味の持っていき方というのが保護者としては懸念する心配事です。何かいい方法があればご教授いただきたいと思っています。保護者代表としては以上です。

（小南会長）

ありがとうございました。いかがでしょうか。

（中央図書館長　勝見）

【資料３】の４ページ、一番下から中央図書館等が行っているサービスがあります。たとえばすべての子どもを対象にしたブックリスト事業が４ページの一番下にあり、５ページの13 番目にはブックスタート事業といって生まれた赤ちゃん相手の事業で、赤ちゃんを連れてくる保護者に働きかけをする事業が記載されています。これらの事業はどのくらいの方が参加したかなどの人数による評価も大事ですが個人的には、それを機にお父様お母様方がどれだけ家で読んでいるのか追ってみたいというのは思っています。この企画がずっと続けば子供たちは本を読むようになるのではないか、そういう意味では図書館全体の本の貸出数で評価してもらう方法もあると考えたこともあるのですが、結果が出るまでには気の遠くなるような長い話だと思ったことがあります。個人的な事ですが、こういった小さい頃からの事業を後押しする事業がさらに作れたらと思っています。

（小南会長）

ありがとうございました。静岡市に限らず全国的にこれは悩ましい問題だと思います。一歩進めてこの会議で議論できればと思います。

（２）「第４次静岡市子ども読書活動推進計画」の方向性について

（小南会長）

議題の２「第４次静岡市子ども読書活動推進計画」の方向性について、事務局から説明をお願いします。

（中央図書館　照内）

中央図書館サービス係の照内と申します。よろしくお願いいたします。「第４次静岡市子ども読書活動推進計画」の方向性についてご説明いたします。今回説明申し上げる内容は、すべて案であり、現時点で次期の計画として固まっているものではありません。説明の後、みなさまからご意見をいただいて、それらを反映させた計画案を作成したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。まずは、資料４をご覧ください。

「（１）計画の基本的な考え方」として、５つの項目を挙げております。これらは、第１次の計画から一貫しており、第４次でも原則継続する予定です。違う点としまして、「④計画の期間」ですが、第４次計画は令和５年度から令和 12 年度までの８年間となります。

ページをめくっていただいて、「（２）第３次基本計画期間における現状と課題」とありますが、こちら事前にお配りした資料に記載されています項目は、第３次計画の数値目標のうち、現時点で目標に達していない項目をただ記載しただけのものになっています。この資料では、委員の皆様に現状を把握していただくには不足ですので、本日机の上に配布させていただきました、「（２）第３次基本計画期間における現状と課題（案）第３次推進計画 14 ページ参照」という資料で説明させていただきます。こちらの資料については、中央図書館と教育センターからご説明いたします。こちらの資料と合わせて、第３次計画の 14 ページをご覧ください。第３次計画の 14 ページには、３次計画における重点的な取組が２つ、記載してございます。この２つの重点的な取組に対し、現在どのような状態であるか説明いたします。

まず、「①子どもの発達段階に応じた読書活動に対する配慮」に対する図書館の状況ですが、乳幼児期への取り組みとして、市内の子どもすべてに対し、６か月健診時に絵本１冊を配布するブックスタート事業や、１歳６か月健診時（蒲原のみ２歳健診時）に読み聞かせについての冊子を配布するブックステップ事業を、コロナ禍ではありますが、各保健福祉センターやボランティアと連携して実施しています。子どもが本に親しむ環境づくりの一助とし

て、今後も継続して実施していきます。

ヤングアダルト、おもに中高生になりますが、に対しては、将来の進路に役立つ資料の配架はもちろん、高校の図書委員にお勧めする本のポップを書いてもらい図書館で展示をしたり、図書館員が高校に赴いてブックトークを行うなど、高校と連携した取り組みを実施しています。今後も生徒同士が好きな本や読んだ本の感想を話すなど読書の楽しさを共有する機会を提供していきます。

ここ数年でスマートフォンが急速に普及し、10 代後半の子どもは紙ではなく電子で情報に触れる機会も増えていることが伺えます。今後は、静岡市立図書館における電子図書館の導入など、ＩＣＴを活用した読書活動を推進していきます。続きまして教育センターから説明いたします。

（教育センター所長　北川）

教育センターですが、前半の話し合いの中でほぼこの内容については出されているかなと思います。小学校ではほぼ 100％に近い割合で朝読書や読み聞かせ、読書イベントなどに取り組んでいます。また学校図書館の機能を活用した授業ということで、調べ学習や図書館で読み聞かせをするなどいろんな形でそういう事業が積極的に行われています。不読率もほぼ０％に近い割合まで到達しています。

中学校では、専門委員会の生徒を主体として、ビブリオバトルが開かれたり、キャッチフレーズで本を紹介する、帯を作って本を紹介するなどいろんな形で工夫した活動が行われています。不読率については、先ほども話が出ておりますが、小学生に比べるとやや増加傾向にあります。これは本に親しむ時間の確保が難しくなっているということで、コロナで図書館を開ける開館時間が制限されたり、人数を制限したり色々な形で図書館に入る時間が少なくなっていることがありますし、１人１台端末が導入され、今は端末に慣れるということが学校で行われていてキーボードの入力の練習などに読書の時間が割かれているということも聞いています。そういうことで、少し本に親しむ時間が確保できない部分があるかと思います。

中学校では、心の居場所としての学校図書館ということで、校長先生がとても熱心に取り組んでくださっている所もあります。あるいは、学習スペースとして個別のスペースを作ったり、窓側に机を配置して学習ができるようなカフェのような感じにする工夫をしていたり、個別に活用されることが多くなってきていると思います。

令和２年度以降は、コロナ禍あるいはGIGAスクール構想で、１人１台端末が入ってきました。子ども達を取り巻く環境はとても大きく変化しています。そういう中で授業での端末の利用も積極的に取り組んでいる所です。今後は、探究的な学習で本とインターネット（ＩＣＴ）のベストミックス的な活用が進められていくと感じています。

また、特別な支援を必要とする子や日本語指導が必要とされる子、ＬＧＢＴなど色んな形で対応が必要な子も増えてきているので学校図書館においても色んな書籍を準備するなど多様な対応が必要だと考えております。

（中央図書館　照内）

次に、「②関係機関の連携・協力と推進体制の整備・充実」に対する図書館の状況ですが、小中学校に対する学校協力貸出しについては、図書館が受取時間を延長したり、学校での教師に対する周知が進んだこともあって、当初の目標であった貸出冊数10,000冊以上を早々に超えたことから、令和元年度の中間見直しで、目標の貸出冊数を15,000冊以上に上方修正しました。この目標もすでに達成していることから、協力貸出しについては一定の成果を上げられていると考えています。

（教育センター所長　北川）

教育センターですが、令和元年度に学校図書館支援室ができました。そういう中で市立図書館と協力しながら研修会を行っていますが、令和２年度には学校司書を対象とした地域資料の収集の研修を行い、授業に積極的に本や資料を活用できるようになってきています。

協力貸出については中央図書館から説明がありました。ブックツーリストは調べ学習に役立つ本だけでなく、インターネットのサイトのＵＲＬも載っているのでそちらも授業で積極的に活用できるようにしていきたいと思います。ただし、今子ども達が使用しているクロームブックでは、閲覧できないのでそれはまた中央図書館と相談して改善していただけたらと思っています。以上です。

（中央図書館　照内）

以上が、資料４の「（２）第３次基本計画期間における現状と課題」の説明となります。続きまして、資料４「（３）第４次計画の重点的な取組」について、説明いたします。こちらについては、現在国でも作成中の第４次計画の内容なども踏まえながら、静岡市としての重点的な取組を定めていく予定です。現状の案といたしまして、「①発達段階や多様な特性に応じた子どもの読書週間の形成」、「②読書活動へのＩＣＴの活用」という２つの重点的な

取組を考えています。①の内容は、３次計画における重点的な取組、先ほどの３次計画 14 ページの内容ですが、この２つを継続しつつ発展させるような内容で考えております。

②につきましては、スマートフォンの普及や GIGA スクール構想による１人１台端末の導入など、子どもたちの生活環境で急速に進む電子化に対し、読書活動を結びつけることを想定した取り組みをあげられればと考えております。

最後に、本日お配りした資料の「第４次静岡市子ども読書活動推進計画　数値目標　案」についてご説明いたします。こちらは、第３次計画の 15 ページにあります数値目標の、第４次計画版として考えているものです。１番から３番までが図書館、４番以降が教育センターで考えているものですので、こちらについてもそれぞれから説明いたします。

なお、赤字で記載してあります数値については、検証不十分な部分も大きく、現時点で確定しているものではありません。後ほど、委員の皆様からは第４次計画について様々なご意見をいただければと思っておりますが、こちらの数値目標についても感想やお考えなどいただければと思っております。

まず図書館についての数値目標ですが、１番と２番は、３次計画にも掲載していた項目を引き続き数値目標として設定しようと考えています。

１番目の項目は、12 歳以下の子ども 1 人あたりの、図書館における児童図書の蔵書冊数ですが、ことら資料２の記載にもありますが、平成 27 年度の実績 7.5 冊から、令和３年度の実績 8.2 冊と、7 年間で 0.7 冊の増加となっています。次の８年間でも同程度の増加を見越して、９冊以上という目標値を仮に設定してあります。

次に２番目の項目は、12 歳以下の子ども 1 人あたりの図書館の児童図書の年間貸出冊数ですが、こちらも資料２の記載から、平成 27 年度の実績 16.7 冊から、令和３年度の実績 19.7 冊と、7 年間で３冊の増加となっています。次の８年間でも同程度の増加を見越して、22 冊以上という目標値としています。

次に３番目の項目ですが、こちらは新たな数値目標として考えているものです。この子ども読書活動推進計画では、18 歳以下の子どもが対象と言いつつ、３次計画までは高校生に対する指標がないことを指摘されておりました。図書館の貸出における数値目標も、１番と２番にある 12 歳以下の子どもに対するものだけでしたので、今回 13 歳以上 18 歳以下の子どもの貸出冊数についても取り入れたいと考えております。肝心の数値目標につきましては、現在検討不足のためお示しできるものがありませんが、令和３年度の実績では 2.95 冊でし

た。この数値を基準として、次回の会議までに数値を示すことができればと考えています。

なお、図書館としては、来年度末ごろから電子図書館の導入を検討しているのですが、まだ予算措置もされておらず、この場でこの計画に盛り込める内容がありません。今後電子図書館が導入され、利用の状況が見えてきましたら、その都度この計画を修正していきたいと考えております。続きまして教育センターから説明をお願いします。

（教育センター所長　北川）

（４）と（５）と（６）については、第３次の資料と同じようなものですが、やはり全校の取り組みとして朝読書や読み聞かせ等を学校として取り組んで欲しいということで100％であげてあります。不読率については、先ほど０％というのが非常に難しいのではないかとご意見をいただきましたが、全くその通りだと思っています。ただ、限りなく０％に近づけていく努力をしていこうということで数値目標にあげています。ただこれも令和 12 年度までの目標ですので、紙の本だけではなく電子媒体を読む子どもたちの割合もこれから検討していきたいと思っています。

（６）については、読書週間、読書啓発イベント、これについて（４）と似ている所がありますが、（４）については、学校としての取り組み、（６）については子どもの図書委員会など子どもの活動も含めた読書啓発イベントも含めた意味であげてあります。私も半年間色々な学校を回っていますが、各学校とても工夫して子どもが本を手に取りやすいような工夫をしています。それは教員や学校司書だけでなく、子どもたちがこういう工夫をしたらよいのではないかということを考えながら取り組んでいる学校もありますので、そういう学校を増やしていきたいと思います。

（７）については、先ほど多様な児童や生徒に対応するような図書を図書館に増やしていくという意味での点字図書、デイジー図書、デイジー図書というのは本の読み上げ機能がついている本ですがそういう本、それから外国籍の子も増えてきていますし、小学校でも英語活動の時間を増やして盛んにおこなわれていますので外国語の書籍も図書館に配架できるような環境を整えていきたいということで 100％の数字を挙げています。

最後の欄外の所はわざとこのようにしているのですが、授業でのＩＣＴの活用が本格的に進められていくと思います。その中で学校図書館を利用してＩＣＴや本を活用したベストミックスな形で学校図書館を整備していくことが必須だと思っています。ただし、これは環境のことなので数値目標として入れていいものかどうなのかという迷いがありその辺をご意

見いただけたらと思います。以上です。

（中央図書館　照内）

以上で、資料４及び追加で配布した資料における、「第４次静岡市子ども読書活動推進計画」の方向性についての説明を終わります。委員の皆様、どうぞ忌憚のないご意見をお願いいたします。

（小南会長）

それでは、これまでの説明に対して活発なご意見をお願いします。

（向山副会長）

特に感心したのは（３）の項目を作ったことです。逆に言うとなぜこれまで高校生をとっていなかったのか、理由はあるのでしょうか。もう一つは、欄外の項目ですが「環境が整っている」というのはどうやって判断するのでしょうか。どうなったら環境が整っているとカウントするのか具体的に教えてください。

（中央図書館　田中）

今まで（３）の項目がなぜなかったかについて、図書館の内情で申し訳ないのですが、そもそも（２）の数値の取り方と（３）の数値の取り方と図書館の内部で統計の取り方が違います。実際に図書館に来て本を借りていく様子を見ていると、子どもの本というのは親御さんが借りていくことも多いです。赤ちゃんの本から小学生くらいのお子さんの本までは、まだ子ども自身がカードを作るのではなく親御さんのカードでお子さんの本を借りていくことがとても多い。ですから０歳から 12 歳までの子どもの本がどのくらい借りられているかは、利用者のデータは無視して児童書というくくりの中でその児童書が年間どのくらい借りられているかという統計を出しております。

それに対し、中学生くらいになってくるとだんだん親御さんの手を離れて自分で読みたい本は自分で借りる、親に自分が借りている本は知られたくないと思うようになるのかお子さんたちが自分で図書館カードを作ってくれるようになるのです。また中学生や高校生が読む本というのは、子どもの本や大人の一般書などくくりが決められるものではない、まだ児童書の中で楽しむお子さんもいらっしゃるし、どんどん大人向けの本を読むお子さんもいらっしゃる、またはダイレクトに中高生向けに書かれたノベルズなどを楽しむお子さんもいらっしゃるということで、本の中で中高生が借りているだろうという統計を取るのが難しかったのがあります。今回、システムで 13 歳から 18 歳までという利用者を区切って貸出点数の統

計を取れるのが分かったので、今回（３）の項目を作ることが出来ました。（２）は 12 歳以下の子ども 1 人当たりの貸出冊数、（３）は 13 歳から 18 歳までの子どもの 1 人当たりの貸出冊数とはなっていますが、（２）は児童書の貸出冊数、（３）は 13 歳から 18 歳までの利用者が借りている冊数、そのような形で数を取っていこうと思っております。

（向山副会長）

（３）の令和３年度は 2.95 冊というのはどうやって出したのでしょうか。

（中央図書館　田中）

令和３年度に 13 歳から 18 歳の利用者が借りた資料の数を年齢別人口で割ったものになります。

（中央図書館長　勝見）

（２）の所を読んでいただくと、「児童図書の」と書いてありますので大人が児童図書を借りてもこの数値は上がります。逆に（３）の方は、借りた方の利用者カードによる数値です。

（向山副会長）

ここで書いてある図書館とは、学校図書館も含まれていますか？市立の図書館だけですか？

（中央図書館　田中）

はい。静岡市立の 12 館の図書館でということになります。

（中村委員）

質問していいですか？協力貸出は一定数いったということで、次回からは外した。私は前から思っているのですが、協力貸出以外に団体貸出もありますよね、団体貸出は学校だけでなく今は児童クラブもやっていますか？

（中央図書館　照内）

はい、やっています。

（中村委員）

子ども達は放課後子ども教室、児童クラブに行って最終的に家に帰りますよね。では児童クラブでどのくらい貸出されているのでしょうか？何カ所くらいあり、そこにどのくらい貸出されているのでしょうか。

（中央図書館　田中）

今のご質問、数値ではなくて申し訳ないのですが、児童クラブや小学校、放課後デイサービス、お子様が関わっているような団体で市立図書館では185団体の登録をいただいています。その185団体が令和３年度１年間に借りてくださった本の冊数が18,820冊です。185団体と言っていますが、利用しない団体もありまして、110団体が18,820冊借りてくださったという記録は残っています。ただ、借りてくださった先で実際にお子さんがどのくらい借りてくれたか、その辺りはお貸しした先の方にお任せしているので、そこまでの数値はとっていません。

（中村委員）

ありがとうございます。家に帰ってからの時間と考えると家庭とほぼ同じなのかなと思いそこの読書環境がどうなのか気になったので質問しました。

（中央図書館　照内）

今の補足なのですが、団体貸出をご存知でない方もいらっしゃるかもしれないので説明します。市内の社会教育団体や事業所、家庭文庫、学校などを対象に本を最大１回300冊、期間が３か月まとめて借りていただけるものです。貸すものについては、読み物、児童の絵本や物語、大人向けの小説も対象になっています。学校協力貸出というのが、調べもののための本になっていまして、そちらは１回で20冊×５分野で100冊、期間は２週間に設定されています。これはあくまで小中学校、高校を対象に、調べ学習用の本のみの貸出です。いわゆる読書といわれるような、楽しみで読んでいただくような読み物などを多く提供するのを団体貸出として分けてサービスをしています。補足でした。

（小南会長）

ありがとうございました。

（教育センター所長　北川）

学習環境が整っているとはどういう状況なのかという質問ですが、今まで図書館というと本を読むところという所の環境整備を進めてきたと思います。これからの学校図書館は、学習をする所、学習センターや情報センターの役割を機能強化していかなければならないと思います。では、どういう環境が整っていればいいのかということですが、子ども達が端末を持って学校図書館に行って、本や端末を利用しながら授業を進めていくためにはWi-Fi環境が整っていることや、プロジェクターやモニターがあるとか、ホワイトボードがあるなど授

業をする環境が整っているかということが一番大事だと思っています。そういう環境づくりを館長である校長先生にお願いしていくという意味での数値目標として挙げていけばどうかという案です。ただし、そこで本当に授業がすすめられるかどうかということが大事だと思いますので、これについてはもう少し検討が必要だと思います。

（向山副会長）

思ったより予算がかかりそうですね。明示できればよいと思いますが。

（教育総務課　佐藤）

今年度から今の職に就き、去年度まで高等学校の現場におりましたのでそういった観点から、今まで調査に含まれてこなかったであろう理由を少しお話しできたらと思います。まず、数値目標の案のところの項目それぞれですが高等学校の学校生活からイメージがつきにくいと言いますか、かなり義務教育段階と異なる生活をしているものですから、例えば朝読書と言っても、朝読書の時間は朝学習の時間になっていて、すでに学校の年間計画の中でも各教科で割り当てられた進路に結びつくようなものを学習する時間であったり、現状それがセットされているのでそこに朝読書というのは無理だという回答をおそらくしていたのではないか。あと同じ（４）の読み聞かせ等とありますが、先ほど教育センターの方の回答にもありましたが高校生になると読み聞かせをする方になります。例えば桜が丘高校では、併設する岡生涯学習館に来る小さなお子さんと保護者の方が来るイベントに授業の間に出て行って、授業の一環として読み聞かせをするという活動をしているので、「読み聞かせ」といったときに受ける方かする方かという発想がごちゃごちゃになる気がします。

（５）の１か月にまったく本を読まないということに対しても、本を読まない生徒は去年まで自分がいたクラスの子をみてもおそらく 50%を超えると思います。高校生になると教科書の厚み一つをとってもそれだけで読書というようなことが日々繰り返されているので本当に忙しい生活の中、読書にまでいかないということが申し上げづらいのですが正直な現状だと思います。

高校生はｅブックが主流な部分もありますし、漫画などもすべてそこから好きに読みますし、最近ですがオーディオブック、これは本にカテゴライズされるか分かりませんが、大人にも人気のオーディオブックがこれから主流になっていくだろうということを考えるとこの辺りの質問も高校生にとっては迷うところであるかという感じがします。

（６）は、個の活動でということでしたので、これは中学校と同じで専門委員会の中に図書

委員会があり、高校生は生徒が主体となって動くことが多いものですから、自分たちで先生に激押しの本を教えてもらって紹介するなど（６）は可能だし、100%を目指せるかと思います。

（７）の点字とデイジー図書は現状どうなっているか分かりませんが、外国語の書籍は常にありますし、聞き方によるかもしれませんが対応可能かと思います。

欄外のＩＣＴの部分に関しては、高校生は１年生からBYODがスタートしておりますので、図書館に Wi-Fi 環境があれば各自のデバイスを持っていってそこで調べ学習をしたり宿題をしたり読書をしたりということは環境としては可能かと思います。やはり小中と比べると生活がかなり違うということがあって統括すると質問のポイントが少しズレがちだったのではないかという気がします。以上です。

（教育センター所長　北川）

高校はこれまで入れていなかったのでここに高校を入れるかどうかということはまだ他と調整していませんので入れたらどうかという案になります。

（小南会長）

ただ今のお話を伺うと、単純に入れるということではなく、入れるとしたら高校の実情に合わせた目標項目の表現を含めて検討の余地があるかと思いました。関連することでもその他でも他に何かありますか。

（狩野委員）

（４）なのですが朝読書、読み聞かせ等全校一斉の読書活動を実施している学校数の割合なのですが、これはどの程度やっていればよいのか、１回でもやっていれば良いのでしょうか。本来なら定期的にやってほしいとは思うのですが、この質問ですと１回やれば良いと思われてしまうと質問の本質から離れてしまうと思いました。

（教育センター　橋本）

その件につきまして、学校現場でも朝の時間、朝学習と高校でしているということですが、小中学校でもそのような形になっておりますので、その時間を確保するかどうかは本当に学校によるということで時間の確保が大変難しくなっています。ここの質問は、「全校一斉で」というところにポイントがありまして、下の図書イベントは、参加する子、しない子が出てくると思いますが、全校一斉で取り組むということは全員が何らかの本を持つきっかけがそこであるわけで、全く触らないという子がなくなるということです。（４）はそのようなこ

とで、週に１回なのか毎日なのかで大きな違いはありますが、週に１回でもあるかないかでは本をずっと１年間持たない子になるのか、週に１回あるから本を持つ子になるのかその辺も違いますので、現段階では週に１回でも必ず全校で一斉にそういう時間があるかどうかという調査をしております。中学校の方が、朝読書をやっている学校はかなり継続的に週３，４の割合でやっている所が多いかと思いますが、小学生の方は外国語が入ってきたり、色んなものが入ってきているので週に１回確保するのが現状ではやっとなのではないでしょうか。ただ、小学校に関しては担任の先生が全員を連れて授業で行って、帰る時には借りていこうという働きかけがしやすいので、先ほど中島中学校の保護者の方もおっしゃっていましたが、小学校の時は比較的持って帰って自宅でも読んでということがあると思います。中学校になると担任の先生が今から図書館行くよということがほとんどありませんので、全員がというところが朝読書の時間に中学校は注がれているのかなという風に感じております。今後、この聞き方をどのようにしていくかは検討の余地がありますが、まずは週に１回でも時間を確保していただくことが大事だと思っておりますので、今後ご意見をいただき、来年度以降に活かしていきたいと思っています。

（小南会長）

ありがとうございます。今の答えでよろしいですか。

（狩野委員）

クラスで行く、ということでもＯＫということであれば良いです。

（中村委員）

（５）なのですが、不読者を数える、これが１か月に小学生の目標、たとえば５冊読もうとか、中学生は３冊読もう、高校生は１冊読もうという風にならなかったのはなぜなのでしょうかというのが１つ。それから２つめは、先ほど調査の方法で７月ひと月の中で聞いたというと７月は中学２年生は中体連があり、ほぼ読めない。

（教育センター　橋本）

７月上旬に聞いているので６月１か月をとってどうなのかと聞いております。

（中村委員）

６月が練習の時期でおそらく一番弱い時期だと思います。インターハイもそうですね。ですから調査の方法あるいは本をどう捉えるのかということを調書の中に入れていただけるといいと思います。０％にするのは苦しいと思います。１つめは質問で２つめはお願いです。

（教育センター　橋本）

冊数で考えることも可能かとは思いますが、全国的に不読率の推移ということで全国学校図書館協議会の方でも調査をしており、高校生では 49.8%、中学生が約 10%、小学生が５％ということで数値が出ているものですから、全国との比較はこちらの方がしやすいということ、そして学校図書館の貸出数でいいますと、年間では小学生が 44 冊、中学生が 14 冊、中学生は月に１冊ちょっとという割合なのかなと取れると思いますが、これも学校によってかなり格差があります。これは平均して出した数ですし、あくまで学校の本を借りたかどうかという割合で、実をいうと学区によってはご自宅にたくさん本がある環境で借りるよりも買いたい、または中学生もそうですが借りるより自分の好きな本を買って読みたいということにもなるのでどこをとって読んだとはかるかということが大変難しく、こちらで調査できるのは学校で、という現場でしか取れないものですから、それも小学校と中学校では、ということになるのでどのように調査したら良いのかは不読率も併せて今後の検討材料にさせていただきたいと思います。

（小南会長）

本を何冊以上読むとかいうことも大事ですが、読書を通じて本を読むことが好きになるかどうかということも大切だと思います。小中学校の間は学校で色々な取組があったり、大人がおぜん立てする中で本を読むようになるということがあると思いますが、自発的に本が好きだから読むという風に読書の習慣を身に着けるということが最終的に大事かなと。本当に本が好きだということであれば高校生が忙しいといえども、忙しい中でも月に１冊くらいは読めるのではないかと思うので、そういったところの把握をどうやって調べればよいのか、手間もかかるので安易には言えませんが、読書の取り組みを通じて読書が自分は好きになったというのを例えばアンケートなどで答えた子どもの割合をこれくらいにする、など読書の習慣が子どもに身についているかどうかを把握するようなタイプの情報というか指標化するかは別として必要だと思います。今までそういったアンケート調査などはあるのでしょうか？読書が好きだと答えた子どもの割合のようなものは今までありますか？

（中村委員）

全国学力学習状況調査の中３と小６はおそらくとっていると思います。

（小南会長）

それは何か傾向がありますか？

（教育センター　橋本）

ただ、令和元年度まではとっていたのですが、今は「家庭に何冊本があるか」という家庭の本の冊数を聞く問題に変わりました。そういう環境を文部科学省の方では聞くという調査に変わってきたので毎年文部科学省の調査に合わせてこちらのアンケートに反映させていくということが質問項目が必ずあるかないかということが年によって変わってくるので、少し反映がしにくくなっております。

（小南会長）

その文部科学省の意図というのが私にはちょっと分からないのですが、

（教育センター　橋本）

経済格差とか、相関をみているのかなと思います。家庭の状況など、ちょっとそこは私もよく理解しておりませんが。

（小南会長）

直接的には子どもがどう思っているかというのを捉えるアンケートの方が分かりやすいのかなと思っているのですがまたそういった分かりやすい、子どもが実際どうであるかを直接とれるような把握の仕方を数値目標に入れるかは別としてご検討いただけたらと思います。他にいかかでしょうか。よろしいでしょうか。それではありがとうございました。本日の協議はこれで終了します。事務局の方からお願いします。

４　その他

（中央図書館　松林）

事務局から今後のスケジュールですが、今年度は計画の策定のため本日いただいたご意見をもとに素案を作り、11 月に第２回の会議でまた審議をお願いする予定です。どうぞよろしくお願いします。

（小南会長）

本日の会議録を事務局で作成した後に、２名の委員の署名が必要ということです。今回は会長である私小南と副会長の向山委員にお願いしたいと思います。会議録については各図書館、各市政情報コーナーで閲覧できる他、市のホームページにも掲載されるということです。

それでは、本日はありがとうございました。

５　閉会

本会議録は、令和４年９月９日開催の令和４年度第１回静岡市子ども読書活動推進会議の議事内容と同一であることを証する。

会議録署名人

会議録署名人